

①古墳時代・古墳とは？

弥生時代の後、各地のムラやクニがやがて畿内（現在の奈良県周辺）を中心とするヤマト政権に統一されていきます。この3世紀後半～7世紀初頭（約400年間）の時代を古墳時代といいます。文字が登場し、身分の差が固定化し、ヤマト政権を中心とした政治権力を誇示するため全国に巨大な古墳がつくられました。

この古墳はヤマト政権と同盟関係をもつリーダーしか造ることがゆるされませんでした。古墳は権力の象徴ですが、当時の最高技術・文化を示すものともいえます。新潟県内には約600の古墳があり、このうち城の山古墳と同じ古墳時代前期の古墳は30基ほどあります。

②城の山古墳について



昔から「ひとかご山・大塚山」と呼ばれてきた謎の小山。この城の山古墳は今からおよそ1,700年前に造られました。東西41m、南北35mの楕円形の円墳で、高さは5mです。新潟県内では古津八幡山古墳（約60m）、菖蒲塚古墳（約53m）に次いで3番目の大きさです。1997年から胎内市教育委員会で6回に分けて発掘調査を実施し、2012年の棺の調査では素晴らしい副葬品（お供え物）が発見されました。この時期の古墳としては日本海側では最北に位置します。



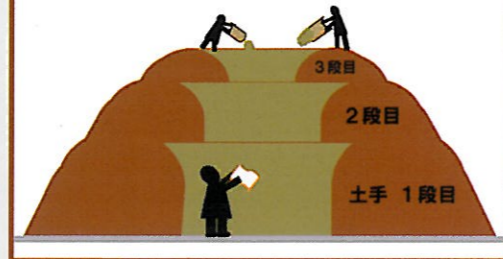
発掘調査の様子

③城の山古墳の造りかた

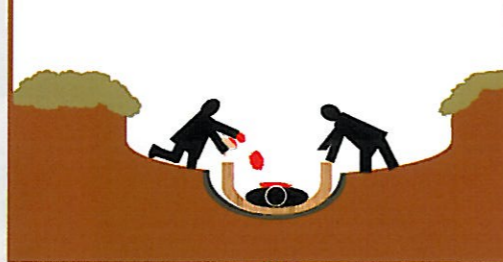
専門的な古墳造りの指揮者のもと大勢の人々が古墳づくりに参加しました。たくさんの土を運んできて、最初にぐるりとドーナツ状に土を盛り、その中に土を埋めて平らにしていきます。これを3回繰り返していきます。このような造り方は西日本的な造り方といえます。

古墳の造り方を学ぼう

①土手をつくり、間に土を入れ平らにいきます。3回くり返して円墳を造ります。



②頂上に棺を設置して、お供えものに囲まれた遺体に赤い朱の顔料をかけます。



③赤く塗られた棺に蓋をして、粘土状の土で固め、埋め戻すときに、儀式で使った土器もいっしょに埋めます。



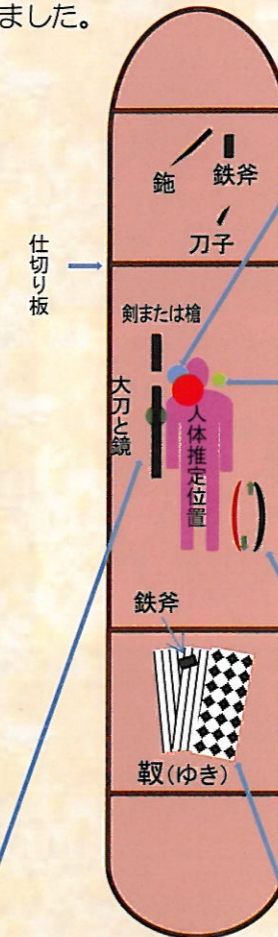
古墳の頂上で見学

④副葬品（お供え物）について

一本の長さ8mの丸太を2つに割り、舟形に割り抜いた棺の中には、この地域をおさめたリーダーが、鏡や玉類、武器、工具などのお供え物といっしょに埋葬されていました。



棺の全景



大刀 (67cm)



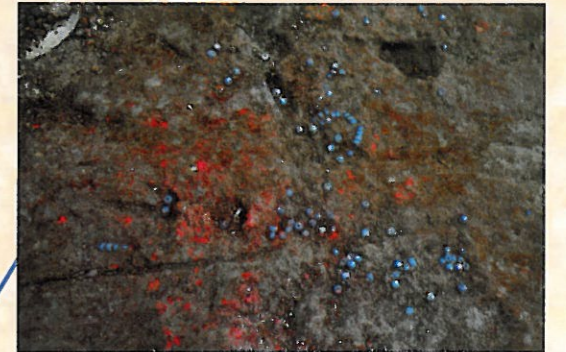
銅鏡 (10cm)

権力の象徴である大刀は生前埋葬者が愛用していたものと考えられます。龍の模様が入った3世紀の中国製の銅鏡は、大切に絹で包まれ木箱に納められていました。

【棺内出土遺物】 ※赤で囲われた物は、古墳時代前期における列島最北の出土品
 翡翠製勾玉1点、緑色凝灰岩製管玉9点、硝子製小玉120点、大刀1点、
 鞘の依存した剣1点、鉄製刀子1点、鉞1点、鉄斧2点、両頭金具2点、
 銅鏡1面、銅鏃7点、弓2張、鞞3点、漆製品2点、板痕4点、人歯、
 土器110片などが出土しています。

⑤なぜここ胎内市？ どんな人の墓？

ここ新潟県胎内市は当時勢力を伸ばしていたヤマト政権と、ヤマト政権に属さない北の勢力の境界に位置していたため、城の山古墳に埋葬されたリーダーはヤマト政権にとって、とても重要な人物でした。副葬品のセットがヤマト政権中心地の古墳と同じ素晴らしい内容であることがそれを物語っています。



ガラス玉と朱（朱の中に人の歯も残っていました）



ヒスイ製の勾玉と管玉（ヒスイは糸魚川産です）



赤と黒の弓と、銅鏃（矢は普通矢筒に納められていますが、赤い弓と黒い弓に交互に添えられていました）



鞞（ゆき）：矢を入れる筒（80cm以上）
 菱形紋様の革製のもの1点と、繊維製のもの2点がセットで見つかったのは、国内で初めてのことです。